

代 表 者

小  
田

視 察 報 告 書

令和 6 年 11 月 5 日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

小田晃士朗  
福永高美  
橋口晶  
定森健次朗  
岡崎源太郎  
坂井誠臣  
横地祐子  
藤本哲智

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和6年10月29日（火）～31日（木）

2. 視察項目

三重県 四日市 市 生活バスよっかいちについて

千葉県 柏 市 柏アーバンデザインセンターについて

柏の葉アーバンデザインセンター

（柏の葉スマートシティ・ゲートスクエアコース参加）

3. 参加議員

小田 晃士朗、福永 高美、橋口 晶、定森 健次朗、岡崎 源太郎、  
坂井 誠臣、横地 祐子、藤本 哲智

4. 随行者

無し

## 三重県 四日市市

### ■視察項目

#### 1. 生活バスよっかいち

##### 1-1. 生活バス運行までの経緯

- 1) 路線バス廃止前の地域での路線バスの運行状況
- 2) 路線バス廃止から試験運行まで半年。早期に対応できた要因
- 3) 生活バス沿線の企業とのやりとりを進めていく上で難しかった点など
- 4) 地域での説明会を行うにあたって会場選び、住民周知など配慮したこと

##### 1-2. 現在の生活バスについて

- 1) 現在の生活バス事業についての課題
- 2) バスの台数の車庫、運転手の人数をはじめ雇用形態や数、組織体制
- 3) 回数券や応援券の販売所や販売方法
- 4) 乗車料金の管理の方法
- 5) 担い手の年齢層、また、育成について

##### 1-3. 生活バスを継続させるための今後

- 1) 路線や停留所の見直しをどの時点で行うのか
- 2) 見直し方法、手法について
- 3) 1乗車150円の利用者の受け止め
- 4) 担い手の年齢層から考えられること

#### ・視察対応者

よっかいちバス 理事長 西脇 良孝 様

四日市市 都市計画課 鈴木 敦 様

四日市市 都市計画課 藤田 貴 様

四日市市 議事課 大関 様

#### ・視察期日

令和6年10月29日（火）13時30分～15時30分

（四日市市役所、四日市バス内）

#### ・四日市市の概要

人口：306,749人

世帯数：145,962世帯

（令和6年10月1日現在）

四日市市は三重県北部に位置する、県下最大の商工業都市。

西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域で、人口は三重県の県庁所在地である津市よりも多く、県内最大の都市となっている。

・ 視察内容

1－1．生活バス運行までの経緯

1) 路線バス廃止前の地域での路線バスの運行状況

路線バスは地域の主要な移動手段であったが、赤字路線により、事業者から行政に廃止の通達が出されることになった。これにより高齢者の買い物や病院へのアクセスが難しくなるという懸念が広がった。

2) 路線バス廃止から試験運行まで半年。早期に対応できた要因

廃止による影響を迅速に解消するため、地域住民が主体となり NPO 法人を立ち上げ、生活バスの運行を実現した。住民による自主的な運営が、迅速な試験運行開始を可能にした。

3) 生活バス沿線の企業とのやりとりを進めていく上で難しかった点など

協賛金の確保に苦労があったが、企業や行政からの協力を得るために地域全体で支援を呼びかけた。企業への協力要請が継続的な課題である。

4) 地域での説明会を行うにあたって会場選び、住民周知など配慮したこと

高齢者が参加しやすい会場を選定し、住民に丁寧に周知。説明会ではバスの必要性を訴え、住民の理解を促した。

1－2．現在の生活バスについて

1) 現在の生活バス事業についての課題

高齢化に伴う利用者減少や運行経費の増加。コロナ禍での利用減少も課題となっている。

2) バスの台数の車庫、運転手の人数をはじめ雇用形態や数、組織体制

高齢者が乗降しやすい車両を使用。地域住民のボランティアも含め、持続的な人材確保が求められる。

3) 回数券や応援券の販売所や販売方法

応援券は地域の店舗で購入可能で、1 ヶ月や半年単位で販売。住民の支援を得るための工夫がされている。

4) 乗車料金の管理の方法

収入は運賃のほか協賛金や行政補助金によって成り立っており、地域の協賛が重要な資金源となっている。

5) 担い手の年齢層、また育成について

担い手の高齢化が課題であり、次世代の運転手やボランティアの育成が重要とされている。

1－3．生活バスを継続させるための今後

1) 路線や停留所の見直しをどの時点で行うのか

利用者の声や地域の変化に合わせ、定期的に路線や停留所の見直しが検討されている。

2) 見直し方法、手法について

地域住民との意見交換を行い、より便利な路線を模索することで、利用者ニーズに対応している。

3) 1乗車150円の利用者の受け止め

運賃値上げに対する理解は得られており、利用者は減少していない。地域の理解を得ながら料金設定を維持している。

4) 担い手の年齢層から考えられること

若年層の担い手確保が課題であり、ボランティアや地域の若者を引き込む取り組みが求められる。

・質疑応答

Q1. 路線バス廃止に関する行政の対応

路線バス廃止時に、行政からは他の交通手段の提案はなく、住民が自主的に対応することになり、地域住民が生活バスの運営を始めることになった。

Q2. NPOの運営体制と役割分担

運転手は雇わず、バスの運行管理は委託先に任せ、NPOは運行費用の管理と協賛金の調整を担当。バス停も低コストで設置し、住民の利便性向上に努めた。

Q3. 企業からの協賛金と地域貢献

地域企業からの協賛が重要であり、NPOは企業への支援依頼を積極的に行っている。協賛企業の名前をバス停に表示するなどして地域貢献を促進している。

Q4. 運行本数と費用抑制策

当初の運行本数はスーパーの買い物時間に合わせる形で設定されていたが、路線の延長などの調整が行われている。運行本数を減らさず、経費を抑える工夫をしている。

Q5. 成功要因について

成功の要因として、一定の人口密度が必要とされ、地域の商業施設や福祉施設と連携した運行が有効である。

【呉市での展開の可能性】

呉市は沿岸部や山間部に集落が点在しており、アクセスが困難な地域も多くある。住民の多くが高齢者であり、移動手段として生活バスの需要が見込まれる。

四日市のように、運行ルートを高齢者が利用しやすいように調整し、主要な医療機関や公共施設、商業施設を結ぶことで、日常生活に必要な移動をサポートできる可能性はある。また、既存の路線バスの補完やデマンド型の運行を組み合わせ、地域の交通特性に応じた柔軟な運行形態とすることで、呉市の多様な交通ニーズに応えることが期待される。

呉市での生活バス運行には、初期投資と運営コストが必要。運営資金としては、運賃収入に加え、地域企業からの協賛金や行政からの補助金が重要な財源となると考えられる。

四日市の事例では、運賃の一部や協賛金の半額を行政が補助する仕組みが取られており、このような支援が運営維持には不可欠である。

また、呉市の地域住民が積極的に応援券を購入する仕組みを導入し、地域全体で費用を分担する意識づけが重要。



千葉県 柏市

■視察項目

2. 柏アーバンデザインセンターについて

2-1. 事業の経緯・概要について行政組織と民間の関わり、市民との関わり、周知の方法

2-2. 組織内の体制について

2-3. 市民の理解、協力について高齢者や子育て世代の取組への理解、参加状況

2-4. まちづくりのテーマについて

2-5. 現状と今後の課題について

・視察対応者

柏アーバンデザインセンター 副センター長 安藤 哲也 様

柏市 都市部 中心市街地整備課 石戸 則利 様

柏市 都市部 中心市街地整備課 三上 俊臣 様

・視察期日

令和6年10月30日（水）14時00分～16時00分

（柏アーバンデザインセンター）

・柏市の概要

人口：436,219人

世帯数：200,911世帯

（令和6年10月1日現在）

千葉県の北西部に位置し、東京都心から約30キロメートルの距離にあり、首都圏のベッドタウンとして多くの住宅地や商業施設が広がっている。

柏市は鉄道や高速道路のアクセスが良く、東京や成田空港などへの交通の便が良いのが特徴。

・視察内容

2-1. 事業の経緯・概要について行政組織と民間の関わり、市民との関わり、周知の方法

柏アーバンデザインセンター（UDC2）は、地元市民が主体で設立された。

1990年代から、柏の街の活性化を目指すイメーリアップ推進協議会が活動しており、2000年代に入り、アーバンデザインセンターとして市、民間、学術機関（東大や芝浦工業大学など）と協力して、まちづくりのソフト面の重要性を認識し、さらにエリアマネジメントを強化した。また、柏の葉キャンパスとも連携している。

2-2. 組織内の体制について

UDC2は、市、民間、学が協力し、多様な会員が参加する組織。

一般社団法人として、約80人の会員が所属し、運営委員と役員も配置されている。職員数は5人で、実務スタッフは民間出身者を含み、プロジェクトを推進している。また、持続可能な運営のため、市民主体でのイベント企画や実験的な場づくりを行い、独自の資金調達手法を採用している。

### 2-3. 市民の理解、協力について高齢者や子育て世代の取組への理解、参加状況

UDC2のプロジェクトには多くの市民が参加し、高齢者や子育て世代を含む市民の理解が得られている。

例として、歩行者天国を活用したストリートパーティーや、子どもたちが主体的に参加する「片付け体験」などがあり、市民に主体的な参加意識を持たせている。

### 2-4. まちづくりのテーマについて

UDC2は、「商業都市から融合都市への転換」を目指し、ウォークアブルな空間づくりや、商業・住居の共存を推進している。

具体的には、商店街の活性化や公共空間の設置、異世代交流を図る多目的スペースの提供など。

### 2-5. 現状と今後の課題について

2018年に策定した20年計画では、地域の未来像を描き、人口減少や商業の低迷に対する目標を掲げているが、現状の課題として、若者の街への関心が薄いことが明らかになっている。また、都市空間の再編や、新たな公共空間の充実が必要とされている。

今後は、市民参加の強化や新たな担い手の育成が求められる。また、若者にとって魅力的な空間づくりや、高齢者が憩えるスペースの増設も課題として挙げられている。

## ・質疑応答

### Q1. 市民の理解と意見の重要性

柏アーバンデザインセンター（UDC2）の運営において、市役所の立場と市民の意見をどう調和させるかが重要課題とされている。

運営のほとんどが市の資金によって成り立っているため、議員や役所内でも様々な意見が寄せられる状況で、公共性と市民のニーズを両立させるための工夫が必要。

### Q2. 民間との協力と人材問題

UDC2では、市のプロパー職員だけでなく、建築職の専門性を持つ民間の人材も採用しており、体制の多様性が確保されているが、将来的に適切な人材を確保し続ける難しさも指摘されている。

### Q 3. 地域独自のシビックプライドの変化

かつての「ダブルデッキ」と呼ばれる象徴的な都市構造が、世代交代と共に市民の間で認識が変化していることが明らかになった。この変化に対応し、地域の歴史と現代の市民ニーズを織り交ぜた街づくりが求められている。

### Q 4. 今後の方針と参加型のまちづくりの課題

高齢世代と若者の意見のギャップが課題として挙げられ、参加型のまちづくりの中で幅広い世代からのフィードバックを効果的に収集し、調整する必要がある。今後、UDC 2 が地域社会全体で一体感を持てるよう、柔軟な運営方針が求められる。

#### 【呉市での展開の可能性】

呉市では、呉駅周辺地域総合開発の一環として、アーバンデザインセンター（UDC）の組成に向けた取り組みが進められている。

UDCは、行政（公）、民間企業（民）、大学等の教育研究機関（学）が協働する連携ネットワークの拠点となり、アーバンデザインに関わる活動について、関係者が共同で明確な目標と戦略を策定し、その達成度を検証しながら着実に目標の実現を推進することが求められている。

現在は次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験の実施など、具体的なプロジェクトを通じてまちづくりを推進している。

今後のまちづくりに関してどのようなことが実現可能か、また取り組み方法の先進事例として、UDC 2 の運営を細かく知ることができたことは、今後の呉市独自のUDCの在り方を考えるうえで非常に有意義であったと言える。



千葉県 柏市

■視察項目

3. 柏の葉アーバンデザインセンターについて

3-1. 概要

3-2. 設立の経緯

3-3. 組織の目的

3-4. 組織の役割

・視察対応者

柏の葉アーバンデザインセンター

説明係 佐藤 様

案内係 野田 様

・視察期日

令和6年10月31日（木）10時00分～12時00分

（柏の葉アーバンデザインセンター）

・視察内容

3-1. 概要

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）は、千葉県柏市北部の「柏の葉スマートシティ」内に設置されたまちづくりの拠点。

この地域の都市開発に関わる公・民・学の各プレイヤーが連携し、競争的にまちづくりを推進する場として設けられている。

UDCKは、さまざまな団体や住民が協力し合い、町の情報発信や新しいプロジェクトの創出を行う、オープンな空間となっている。

3-2. 設立の経緯

柏の葉地区は、かつて米軍の柏通信所跡地や三井柏ゴルフクラブの跡地を中心に、土地区画整理事業が進められた。その後、つくばエクスプレスの開通を機に、東京大学や千葉大学などのトップアカデミアが集結し、本格的なスマートシティの開発がスタート。この地域のまちづくりを推進する中で、公・民・学の連携が必要となり、UDCKが設立された。

3-3. 組織の目的

柏の葉スマートシティの「環境共生」「健康長寿」「新産業創造」というテーマに沿った持続可能なまちづくりを促進すること。

各プレイヤーが集い、競争的な取り組みを行うことで、地域や日本、さらには世界が直面する課題に取り組み、新しい価値を創造していくことを目指している。

3-4. 組織の役割

UDCKは、公民学の連携を促進し、町内外のパートナーをつなぎ、様々な競争事業を創出する役割を担っている。また、得られた知見を地域社会に還元し、さらなる発展につなげている。具体的には、まちづくり活動の情報発信やプロジェクトの運営、地域住民とのコミュニケーション促進を行っている。

### 3-5. 運営状況

現在、UDCKは地域の自治体、民間企業、大学、研究機関などと密接に連携し、多様なまちづくりプロジェクトを進行中。

ライフサイエンス、エネルギー、モビリティ分野などの課題に対し、実証実験やデータ利活用を行い、具体的な解決策の創出に向けた取り組みを行っている。また、スタートアップ支援や市民参加型のワークショップを通じ、持続可能なまちづくりに向けた活動を日々行っている。

### 3-6. 利用者の声

- ・地域住民：「UDCKの活動に参加することで、地域の未来を考える機会が増えた。住民として意見を反映できる場があることはありがたく、実際に自分たちがまちづくりに関わっている実感がある。」
- ・企業関係者：「柏の葉のスマートシティでは、新しい技術やサービスを試すフィールドが整っている。UDCKの協力で、ビジネスアイデアの実証実験が可能となり、地域全体で取り組む姿勢が企業の成長を支えてくれている。」
- ・学術機関の研究者：「公民学が連携する仕組みは、研究成果を社会に役立てる場として非常に魅力的。UDCKがあることで異分野の連携が進み、新しいアイデアやプロジェクトが生まれやすい環境が整っていると思う。」

### 【呉市での展開の可能性】

「ゼロからまちづくりをするとどうなるのか」の答えが、柏の葉アーバンデザインセンターだという印象を受けた。

呉市で参考になる部分があるとすれば、今後の呉駅周辺開発において、アーバンデザインセンターの役割において、どのように方向づけるかという点だと考えている。

柏の葉全体を見た場合、この規模でまちづくりを行うことは呉市において現実的ではないということを踏まえたうえで、どのような機能を持たせることが、呉市民にとってより身近なまちづくりができるかを考える機会になった。

柏の葉では主に、

#### 1. ライフサイエンス分野の取り組み

柏の葉スマートシティ内では、ライフサイエンスフロンティアとして、新たな医療産業の育成を目指すプロジェクトが進行している。例えば、国立がん研究センター東病院や大学との連携により、先進的な医療技術やサービスの実証が行われている。具体的には、医療製品や再生医療の事業化を加速するため、産

学官が協力し、柏の葉に集積された技術・知見を活用して革新的な医療モデルを構築。

## 2. エネルギー活用モデルの実証

柏の葉では、再生可能エネルギーの普及に向けた取り組みとして、地域内のエネルギー利用を最適化するエネルギー管理システム（AEMS）の導入が進められている。これにより、電力の融通やCO<sub>2</sub>削減が実現され、さらに様々な企業が参加し、新しい技術の検証と発展を図っている。

## 3. 自動運転の実証実験

交通分野において、柏の葉では自動運転技術の実証実験も進行中。UDCKが協力するこのプロジェクトでは、特定のバスルートでレベル2の自動運転が実現しており、将来的には完全自動運転を目指している。

地域のインフラや技術支援を生かし、他の地域への展開も視野に入れた取り組みが行われている。

## 4. 住民参加型のプロジェクト

UDCKが主導する「みんなのまちづくりスタジオ」では、地域住民が企業や研究機関と共に課題を解決するプロジェクトに参加することができる。

例えば、大手日用品メーカーと共に行われたワークショップでは、産後の保護者の不安に関する課題を洗い出し、解決策を模索する取り組みが行われた。

このように、実際の生活者の声を反映した新サービスや製品の開発が進められている。

以上が、取り組み事例としてあげられる。

柏の葉での事例をもとに、呉市にマッチした取り組みが行われるよう、会派で提案を行うために、今後も調査研究を継続していきたい。

